肖像

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号 か-75

ガラス使用

肖像

二

かく
特別
75

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号 か-75

ガラス使用

省像

国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号 か-75

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号 か-75

ガラス使用

怒本産
肥後益城郡
矢部在田野村ニ産

大空武左門

二十五歳

○丈　七尺三寸　○掌　壹尺
○肱　壹尺壹寸五分ニ重ヲ　三枠貳貫目
○蹠又五尺壹寸　○身幅　前後　九寸ヲ足
○袖　壹尺九寸五分
○肩　巾貳尺貳寸五分
○人ヲ神社ニ祈リテ願ハクハ我ガ手長クシテ
○怒本先祖ハ代々壹尺十ヲ江戸ニ有
○大空乃葬式ニ吸用カ為ノ棺出来ニ驚ク
○牛腹ノ神社ノ浮院ニ苗字ヲ元ヨリ無
○父母兄弟共ニ身ノ丈ヲ書ク
母のミあり
○役元ヨリ此ヲ日本ニテ何ヲ称
○生質淳朴ニシテ心カ量ハ広ク常ニ
右ハ本月廿五日柳河侯ノ藩邸ニ於テ武左ヱ門ヲ画ニ
文政十亭丁亥季夏

狩於 狩主人

歌川国安画

三分一縮寫

身長七尺三分
衣五尺寸
肩洞二尺寸五分
袖寛一尺九寸

手裏八寸五分
足裏一尺寸
外套三足ノ寸
身重三十二貫

文政丙六月十一日　肥後国怒本産
全楽堂萬本
大空武左衛門

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号　か-75
ガラス使用

高山正之之像

稈彦九郎
字仲繩

高山操志

新田郡細谷村人也其先遠江守某義貞節王所謂十六騎黨之一也

高山正之上野人也稈彦九郎家世農
正之生而俊異喜讀書略通大義
為人白皙精悍眼光射人聲如
鐘有奇節母死廬於冢側三年
饘粥不給骨立如枯木下略
其為世所重而直已不阿如此然正之
在東不得意西游至筑後過一關關吏止
正之歸館自刺館主人驚問故不答曰吾館子々
自刀死無他證左又不知其故吏来檢尸何辭答之願不殊以待正之曰諾剸
刃于腹與劇談至夜分吏来秉燭檢之又問故不答固下略

我古少木雞稈寫

本紙圖文七尺三寸　十分一縮寫

元圖頭千豆
不ツリアイノマヽ寫

九分一

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号 か-75

ガラス使用

問曰狂發而已乃揠刀深入尺許即死臨死館主問所言正之曰寄語海内豪傑好在而已正之既死事傳三都（下略）正之竟絶年四十餘是歳寛政五年癸丑夏六月二十有七日也墓在久留米寺坊遍照院（下略）

われそわれと思ふしもそ
かや
すゑすゑきのふの海こゑ
のかゝるうれしき　こそ

集正之贈劔持長藏書翰之字　松浦　弘

高山正之に正しき人なりをしき人なり今其傳とも我ゆゑたりしめて高山操志と
いふ書なきり其正之のおもひしとともしてなりぬる法無なりけりいとも
うきしきことなりなんいともうきしき大法無なりなん　福羽神祇少副　美静
ぬるいてしいさ我なりけり　くものうへ心やくしまるやまの天　澤外務卿　宣嘉
高山操志をみる事
法をしる雅の道を速いしあふまゝるゆゑ出我なるをしれて

御沙汰書寫

草莽一介之身ヲ以テ勤
王之大義ヲ唱ヘ天下ヲ跋渉シ有志之徒ヲ鼓舞ス世ノ罔極ニ
遭ヒ自刃シテ死ス其風ヲ聞テ興起スル者不少其氣節深ク
御追賞被為在依之里門ニ旌表シ子孫三人扶持下賜候
事

明治二年己巳十二月

太政官

高山彦九郎

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号 か-75

ガラス使用

翁に所持の形容を問翁説を云ふ詳なり出て来て翁の画をもてて其に外様を図せ工夫ありたる翁ハ只他によれり四番あるべく矢背の老婆来ぬ翁と記に見えたるし様をこんハ婆云あやしむ事し彼形様を結朝竹中に死たり翁是を使ふ弥翁の草見を感し姫を見て其事れを作て一句を得て翁又来ぬ翁後に図せる所の画帳をもたらせ是を見せしむ翁驚歎して云是其の所持之と翁ハ云ふ出て本陣く翁に謝せ其画を為し今有る京師某の家に翁ハ画に心をもちゐしを初めたり

青凡亭話 亦西定雅の話に恵翁ハ見て置し附形馬の草をもむ所を図せり一老翁見て難して云是盲なる翁云夫馬の草をくらはんとせるやうなるを見て目を閉是草に目を傷らんことをいとへたし此等義中に鼻づらをいまなるを其眼を得見せ見て是盲なるにあらせしく何そや翁ふかく其説を感せ抑此二翁何人ぞ野史なり切忘れとはあれらをやつて云ふ

蓑笠雨談 巻之二 十一丁

圓山主水 應擧

京都之人

寛政七年七月十七日 六十三

近世京師の画家多くハ應擧に風に出さるハ其実に近世の名手なり長澤芦雪も此門より出て名ありたり呉月溪始め蕪村翁に学ひ又應擧をも学ぶ豊彦景文南岳之諸家ハ皆呉家之法より出たり

此柳文我筆跡本紙絹巻物浅草文庫模

四ノ云

国立国会図書館 タイトル『肖像』 請求記号 か-75

ガラス使用

呉春号月渓画家 京師之人 松村

文化八年 七十才

呉春

同蔵

加茂真渕像

京ニ上リ荷田春満ニ
学ビ古学ニ
明和四年の春
江戸ニて
「みなみ」の花春
立ぬ也しかるの
ひぐらみの余
かすこゝろ知く 春興
「ちらくと吉紀春日ニ有りぬまい
白日ニて いとなりけり」
「春日清水や神の春ぶめし 二荒山ぬくるびとぞ子伊代ゝら ごかじ

号岡部漫士 遠州浜松産
絲居と称著述多し
明和六年十月三十日
行年七十三

国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75

ガラス使用

林子平

仙産西之町 龍雲院

寛政五年六月廿一日

行年 五十一才

六無齋友直之墓

産石迄二尺三寸

蟄居せしとゝの祇とく

親もなし妻なし子なし板本なし

金もなしなれと死あくるもなし

大槻氏藏

町田君省像之分

明治十四年五月 第二回觀古美術會出品

天生四地生萬物天下有民仁聖

牧之放春道萬物榮發道萬物長

秋道萬物盈冬道萬物靜盈而戒戒

而復起莫知所終莫知所處始

丙午季夏下院 林子平書

国立国会図書館 タイトル『肖像』 請求記号 か-75

ガラス使用

海國兵談序 前文略予友林子平者慷慨之士也性怡澹寡欲心存
大義其親族略多縉紳子平視不為家酷好跋涉凡 邦域內經歷
殆徧其自處常如在兵革間藍縷糲食草行露宿陶々而自適
云嘗憤然発志困学有年著書滿架皆當世之策此編名曰海
國兵談其意以為我 國海國也要在備於海寇故以且焉其
論說確實激切如目覩其人傍採海外奇策古今來
未嘗見聞者出之足以觀我 國防御示之大方
其所志可謂偉矣當今之世豫虞匪懈講習之務
益又益精研究周致無所不至則所謂以至萬萬
世便人民永莫受兵革亂離之苦者其在乎斯歟
其在于斯歟

天明丙午夏五月念六

仙臺 工藤球卿 撰

寛政四年壬子六月十六日 旧幕中渡

松平陸奥守家来

林嘉服同居男

子平

壬子方後從命利敬々不致其一己之名聞之揚り其家も無之
風軍又ハ推察其兵器ハ日本ヲ襲ふ事可有之趣當時呉
説等之文著述致且右之内ハ御要害等之儀も諸侯之外
地理未遠之絵ハ未深出家又ハ板行ニ致當所二十日推ハ店市當方
差出し申始末不憚公儀仕方不届之事自是嘉服ハ行渡し
其所ニ於て勢居中ニ付ハ老板行物并板木ニ至る
右松平越中守依稿ハ町奉行 小田切土佐守是ヲ申渡

天保十二年辛丑七月二日大番頭泉田佐渡守ニ左之通申渡
林子平儀先年蟄居申付長文政五年二月御勘任
御兼任之御赦之御免ニ付　御付申候ニ不病死致申之付至方ニ
申渡申間難有可奉存申旨今般水野越前守殿以上
為ニ遠國之渡之月至人方ニ赦免申渡候之所ニ可持出
此条別段諸元事未詳達ニ

承り人　林良伍
死失子平再縁

御任の赦ニ家齋公大政大臣御惠所一位ニ登れる時大赦ニ至りたまふ

同蔵

師本しまれ
やまかつ後学
人心ニ付
あさ月ヶ　本ニ付
やまさくら　右ニ付
宣長詠
曾孫豊穎書

以下此印文居画

五十

国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75
ガラス使用

木村多吉郎号蒹葭堂　大坂之人　号巽齋

享和二年正月廿五日　六十七

名孔恭　字世肅　浪華堀江の人

質直ゆゑて忠誠且性学多通し情志寛後

世人に定りを結ばさるものなく

ぶらに和漢の物産を究れぬ山海

の名勝齊美れ齊和を集め

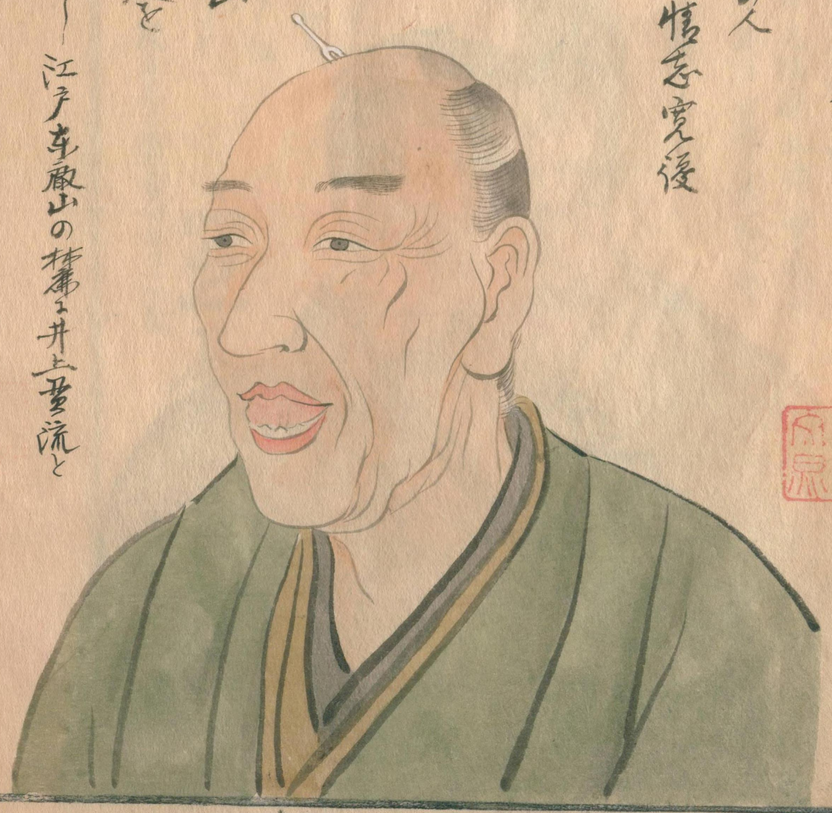
傍古之奥を愛玩し自て

亦よく山水を畫りて方今唐山

様の風流好事をもて極めて此人を

もて嘗(ハジメ)矣とす自朝の学に精し江戸本厳山の林家に井上畫流と

いふ人あり容貌甚に齊まりその譯人になりて畫流の肖像を畫りしめ多く



姫日景山水

巽齋

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号 か-75

ガラス使用

蒹葭堂案帯

蒹葭堂圖門前臨流水入門幷布樹爲徑數步爲書堂堂前後雜植異花名芳間以諸國怪石軒砌梧柳垂陰書房一區上設小閣房後有二庫介收本邦外城之書典有藥欄有蔬圃有果園有魚沼隣村接播皆可經行遠山入窓目一の眺望云

予荷亘癖搜四遠山水西遊之日偶訪蒹葭堂、世肅乃迺余甚堂、堂則災後所假構、延裏僅不過數武焉、從容諱曰、私心嘗竊欲新吾草堂、于茲有年矣、於今換也果、請予幸採擇却本意、盤礴以緩之、且夕視此慰宿想焉、於是乎、予起推其旨於指掌間、聊爾塞請耳

寓於浪華 蒹葭堂中 文昭

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号 か-75
ガラス使用

皆川文藏 淇園

京師之人
享保甲寅十二月八日生 文化丁卯五月十六日沒

名原 字伯恭 又号 節富と

享年七十四 京極阿彌陀寺葬
晩年出画より大工進めり

四五歳の頃より文字を識れり 書をよくし画を一掃するみ

父試に拙甫の社興八首の詩を出て
あらんたりし日あらず 讀ある
十五歳の時 第成章とは東聘の
韓客に遊ぶ席上唱和の詩
巧なりしれば韓人を驚かし名を海外に馳せり

文化乙丑の歳西隣學堂を建 弘原鈸と号 春秋二仲に先聖を祀れり
其門人凡三千餘人 性酒を嗜み徐竹の親人をもつ 淫酒(おぼれ)をあし

名家畧傳中抄出

国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75
ガラス使用

太田南畝号蜀山人 直次郎
文政六年四月九日
行年七十五
称名覃字子耜江戸人

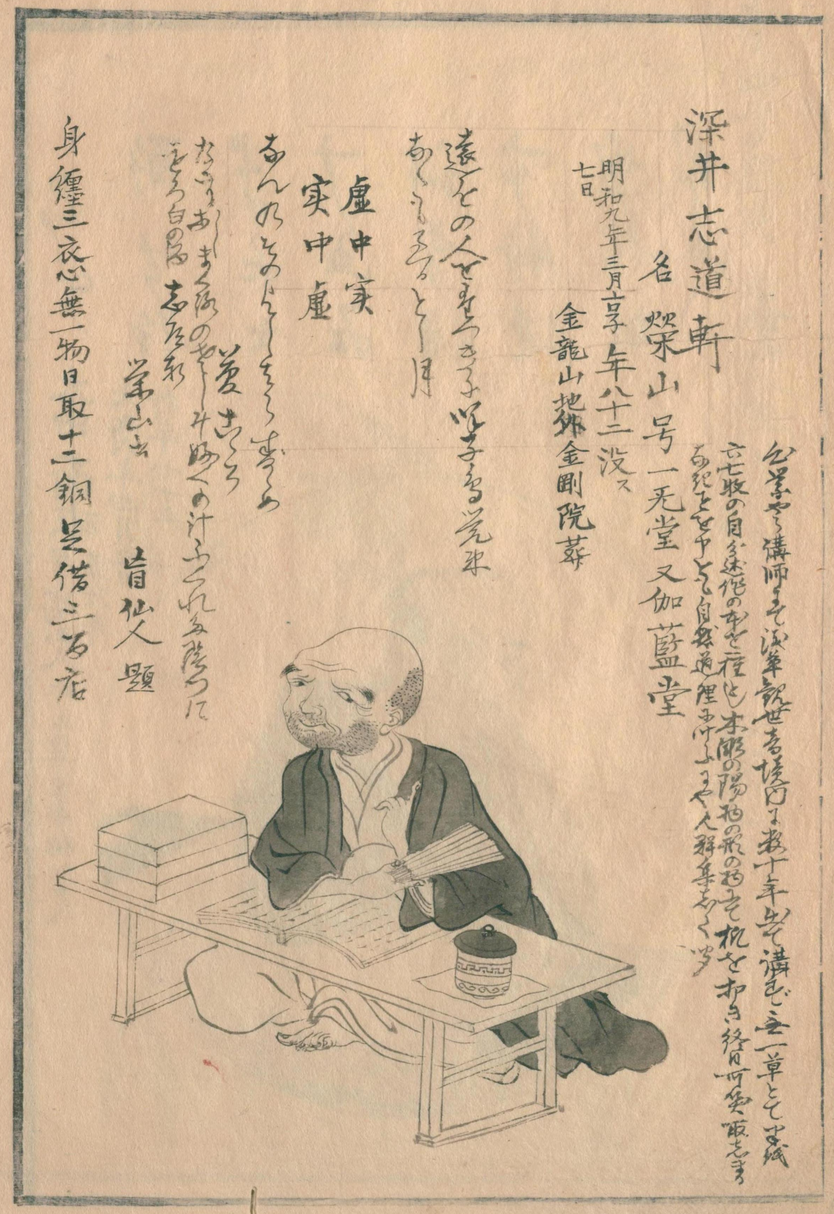
醉生夢死七十五年諸君得市脯近聖餘比目魚

栗

太田南畝 四方赤良 南畝蜀山人 江戸人 文化六年六十三歳 寿像

文政五年

国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75
ガラス使用

栗山

柴野彦助　号栗山
文化四年十二月一日　七十三　卒葵千　大塚　御厩曲
名邦彦字彦輔一号古愚

佐肠嵩之像

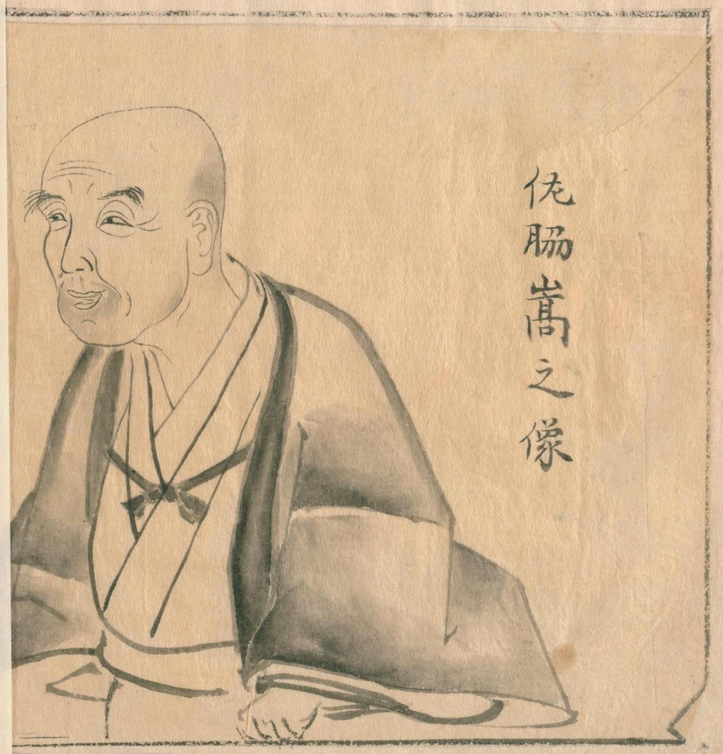
国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号　か-75

ガラス使用

東山

嵩之指

本姓佐脇名道賢字子岳
幼名山高指又英一水呆[illegible]觀中仁齋堂
生東窓羽一羽平富士口ちに
通称志蕃 同和九年七月廿三
二甲戌之二年ヲ誓願寺中穆名
隆葬一世晩年所作



佐脇嵩之像

国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75
ガラス使用　挟み込み物

岸雅樂助 岸駒

京師ニ住寛政十二庚申年四十七歩位ハ壽像

當卯七十八歩　九十歩

天保九年十二月五日沒

存命

山東京傳

通称京屋傳蔵といふ京橋銀座一丁目に住して烟管煙色並に家製を種書丸甚
餘製業を鬻きて業とす初め北尾政美に学ひて画に藻字政演と名のり又狂歌ハ名を
牙煙折助といふ後芸述を望むとせり中興戯作者中の翹楚也
浅草寺中人丸祠の傍に建てる碑の銘なるひに本和四向院の墓誌を墓し切て其姓氏
の籍を知り且平常の戯編の巧なるが猶現ほ遺れを左に挙く
明和六年といふ二月十五日齢九十歳といふ師のかたに望みちくいろはりしかひ
し時親のゆかりしかつくなむ此つくるにはあやまるされば清てりきかもしきふくみやびる
かたを寂なれとをかしし拾遺とはたのしくてうてきらを沙ひとりかたあり居しとも
五十にちのく何れとつくる冊子ハ百部をこえたり今ハ相のうてうたましひもはれしいと海にも
うすみやうにかしられもたしうきこうにかうみなとしてもうかれに老しらへるすまるかあ
ハ是明のハ野むし　再り其二祢あしいくしけてもうとも世にふる机な神も老しり

山東庵京傳

五七　文ノ一

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号 か-75
ガラス使用

文化十四年丁丑春二月

愚弟

京山磐瀨書 并篆額

同碑背面

翁諱醒字酉星號醒齋又號山東庵称傳藏以其所居近京橋一字京傳故其為京傳最著磐瀨氏其先出自磐瀨朝臣人上近世資詮者仕太田道灌為謀臣道灌亡世隱於勢州一志祖父信篤考父信明仕某侯多病辞仕隱於東都市娶大森氏生翁及百樹翁少好稗史小說數百著作□冨戲文幼說謬悠無根能令人悲能令人喜坊間書賈進於剞劂者利市三倍於是兒童走卒莫不知京傳者晚悔少作無益於世改勵刻苦搜索奇秘著近世奇跡考及骨董集二百年来奇談逸事考據精確可以補小史矣文化十三年丙子九月七日没歳五十六葬國豊山囬向院弟百樹埋翁幼時寫字案於淺草寺中材本祠側以遺賊建碑刻翁國字記言以告後之讀其書而不知其人者爾

文化十四丁丑春二月

江戸南畝覃撰

京山磐瀨百樹再書

窪世祥鐫

囬向院中墓誌

亡兄諱醒字酉星一字京傳号醒齋号山東庵磐瀨氏其先出自磐瀨朝臣人上近世資詮者仕太田道灌為謀臣

五八

京傳文ノ二

道灌七世隠於勢州一志祖父信篤父信明仕某侯多病
辞仕隠於東都市娶大森氏生二男二女亡兄為其長自
幼好文十歳縮寫孟子今尚存家自十九始有稗史之作
上梓者百五十余編因茲其名聞海内王公妾婦牛童馬
走無不知矣今茲文化十三年丙子九月七日病没歳五十六
矣予弱冠出仕篠山藩病辞仕絆与亡兄同筆研有年
無常風来玉樹砕癈心月照蕭鼓堂嗚呼悲哉

愚弟　京山磐瀬百樹謹撰并書

窪世祥鐫

岩瀬百樹字鉄梅号京山岩瀬朝臣人上之遠裔也
父信明勢州一志之地士来江戸娶大森氏生京傳翁
百樹及二女百樹自幼嗜文武弱出仕　笹山侍従多病
辞仕以及銭葦之牧為業自戯有稗史之作乞梓者
隨至編作日富与兄齊時鳴雖然少作之名為大方
所恥也時三十三巳過上壽之半故建壽藏自記名氏聊
省亡後之労尒

京山岩瀬百樹誌辰之醉後撰并書

于時文政五年壬午夏六月十有五日也

墨水石匠　窪世祥鐫

国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75
ガラス使用

寛政二季庚戌秋八月

岩瀬氏之墓

岩瀬傳左衛門信明

男　傳藏有濟　建

著作目

骨董集 武清画 四　近世奇跡考 上同 五　昔語稲妻表紙 五

四季交加 二　忠臣水滸傳 十　本朝醉菁撻 下編 十

善駕安方忠義傳 六

小腹筋逢夢石 初二三　逢夢石餘興 小坐敷藝忠臣藏 一　小新造圖彙 一

小教訓繪兄房 一　小指面草 一

一黄表紙 自画多 百十七部 一合巻 八拾九部 茅表紙小本 葯蒻本下拵 十六種 自画多

山東京傳

山東庵菊花事号あり 法号 辯譽智海京傳

嵓瀬氏初名由藏本姓幷田

称京屋傳藏又号

醒々齋ムサミヒノ翁

字酉星号醒世老人

画名北尾政演

江戸京橋住ス

文化十三子年九月七日

本町廻向院 五十六

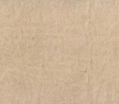
附録

名藏字伯慶

江戸深川木場町ノ産

初名甚太郎

地名江 雛の画ニ



志ゆきの尾ハ柳ヲ似ても若雛の

風ヲあらそふさの毛いかなる毛

京傳画賛

文化十一年九月

巣鴨忠兵衛造菊蹟

香蝶樓

國貞画

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号 か-75

ガラス使用

十返舍一九
重田貞一

十返舍一九 重田氏名貞一通称與七といふ駿河の産にして居を駿府又深川
住堀町に占め貴小通称町 書肆仙窟堂主人 に移住せり 墨川亭日一九初き時市丸と唱ふ故に
市を一に作り雅名にも弱冠の頃東都に出て或僧一説北田君江都君に来せり時に仕へ千度大坂へ登
彼地に住て志那流の香道に稽古あり十返舍の号は黄熟香の十返をとりて名とせしといへり
以の上に出や並木千柳若竹笛躬と倶に本下蔭の繰戯曲を編述したるより後反ありて
自ら香屋に移ふを楽とし寛政六寅年復び東都に来る始て禅史毎三部を著述して
耕雲堂と梓に上せて發市せり 文化十一甲戌年世を去市せる膝栗毛本末行已る

著述目

道中膝栗毛 自画 遠こ白浪 北斎画 三
同後篇 中仙道 同 人こ癖十癖緒言 一
享和四年 樋口舞子濱 善色人美本 豊国画 二
賣色安本丹 一

一黄表紙 自画多 百五拾八冊一合巻 百六拾二冊
内方言修行金叶鞋 廿五編

国立国会図書館 タイトル『肖像』 請求記号 か-75
ガラス使用

法東子云ハイヒハピの
假字なるべし されと
あらしき 無し
イニ四ノ句
繁りとなれ

天保二辛卯年病て没す 浅草 土富店

善龍寺 俗ニぬけ寺と云 地中の東陽院に葬る 墓前ハ恩祖塔裏の方ハ 前月ニ東三軒目

辞世

此世ハ夢とまやおいとゆふ
とゆふつひ有ハ 所有なるべし

墓碑面

開示院妙入日忌信女 文化二乙丑八月十七日

心月院一九日光信士 天保二辛卯八月上ノ七日

心覺院妙智日壽信女

十返舎一九

重貞田

院ノ字添喰ニテ埋テアリ 是
御改革の節ニ斯セシナルベシ

鶴齋杉田先生肖像

名ハ翼字ハ子鳳俗稱ハ玄白一ニ九幸ト號ス
父ハ甫仙ト云若州侯ノ醫員
晩年ニ及ンテ台府ニ拜謁ヲ許サレ八十五歳ニシテ館ヲ捐テ給フ

蘭學事始八十三齢九幸翁
漫書ナトあり

蘭學事始抄模

六ノ二

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号 か-75
ガラス使用

玄玄居士畧伝

曾　青青　述

先人竹内玄玄一名桜陽言形に生徳成童にして痛ぐ
明哉失ふ時り　同生加古此公言なる　人の能諧へ導らんと
わまふれてハ勅らきしが　重身雷雲若色を見るゆゑ
ハ何を思ふとも　甲斐京ゑんと答へし　我左右思
ひを尚書にいきたや　唯心と猶里心眼の明あるゆゑと
後なり若此不可する而京後屋しとて「公まで見るが見る
なり月の色と喩(さと)はきし　句に感激(げき)若心より「異ゆす
深く風に　驚くさ猶附う里　諺(こといき)り千里を一歩より　起
るといへば心掛たるゆゑに　京ゞ至佳(か)変にいるらはゝめやと
直ちに重ゆゑ　今く「初唐や　あれ　棹(さを)に成り　枷(かせ)ゑ　有里と
一回我叱(きき)しよう　往くに数多の紙筆を費せ里　わるゝ

飄水重磨と交遊(ゆふ)して　逆我討論する事と他なし　一と也
故里を知く諸国我　經歴する此志なり　潜に七(ゆ)を　将来の
習ふ能個世像此と　十件年　去く我の江戸に来里深川
に居をトゞ(ぶく)に　略

安永院玄玄居士

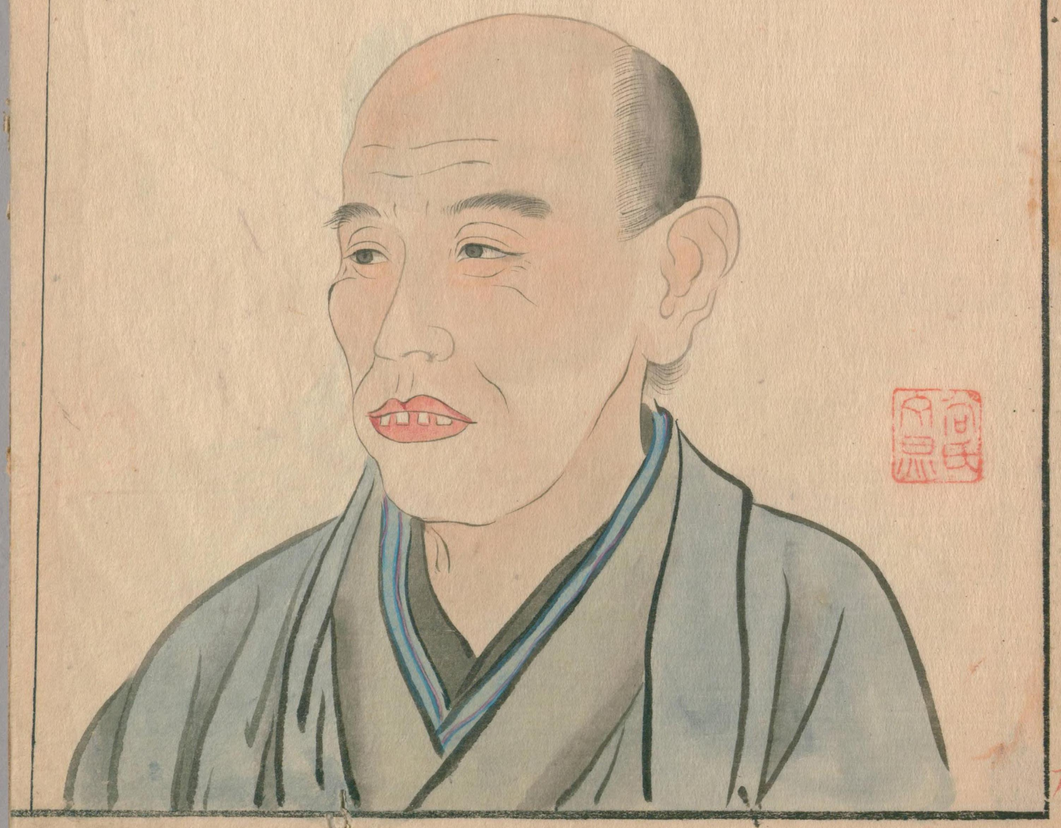
常千花や
青久ば
又の
桜ばらけ

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号 か-75
ガラス使用

又二姓未到而不学人事我雖すなれ儒子業堂に建て猶出
我講ぜし免妻女家児をして和漢の儒記我讀しむ是
身此家を顧いたり始免東武へ来てより人の困窮我
相ふ事少家ふ況故に重身の淳沈も亦交互に或心ふ事
者の今眼を備く 貧窮人此資用に推ぶから憶ていふ
有餘を頼して不足我補ふ天の道なりと云惠波なる事
まゝ此者如し文化改元此年中秋廿五日我歸く物故
享年六十省三吾甲長久院に葬家

松井小左衛

京師古梅園主人



国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75
ガラス使用

林大學頭

文化八辛未年四十四歩 壽像

典江画家 大坂ノ人

国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75

ガラス使用

文政元戊寅年四月十三日
七十四歳ニシテ物故ス

淺草　源空寺

十七年一月摹

伊能老生肖像

諱忠敬、字子齊、伊能氏、号河東
称三郎右エ門、晩称勘解由、北総、
香取郡佐原村人、原姓
神保氏、
五十歳ニ及ンテ家ヲ其子
譲レリ
寛政十二年閏四月
官命ニ君測量北陸道、
及蝦夷地方東南沿
海、亨和元年二月又
伊豆、相模、常陸、陸奥
六月又出羽、三越、佐渡、
能登、駿河、遠江、三河
尾張沿海
文化紀元集地方各圖
編一大圖、進呈、其九月、官賞
賜廩米、擢爲小普請組、属天文方
當時ハ私資ヲ以テ測量セシコトヲ請ヒ方メテ其允許ヲ得タリト云フ既而又命測量山陽山陰西海南海四道壹岐對馬
二島官道沿海十二年又命測量伊豆七島、及箱根湖既竣事、測量江都府内十四年四月府内圖成、進呈　下略

先生曾孫源六所藏

元祖一龍齋歌川豊春門人

歌川豊國　号一陽齋

文政八年正月七日
實彩麗毫信士　行年五十七
三田聖坂功運寺

十六の月七日
師ゝる人と共に
[illegible]
[illegible]
[illegible]
すらけや粥の七種は
佛乃齋
上渡亭
周貞

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号 か-75
ガラス使用

故豊國門人

歌川國芳

号一勇齋又朝櫻樓
浅草日蓮宗大仙寺葬

文久元年三月四日
深修院法山信士
行年 六十五才

やき茶の
いすりやきまて
茶洗の
本も[illegible]
[illegible]

梅屋

門人

歌川芳房

号一寶齋

万延元年六月十日
釈速入信士
行年 二十四才

[illegible]
猫飯[illegible]
[illegible]

龜田鵬齋

文政九年三月九日
七十三

這老子其頭則倭其服則倭
你為何人你為誰氏仔細看来
鵬齋便是非商非三非農非
士非道非佛儒非儒類一生飲
酒終身不仕癡耶黠耶自
視迂矣

壬申歳四月六十一弧辰自題

関東 龜田興

国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75
ガラス使用

越後亀田町佐々木新平彦
文化年間
越後國小蒲原郡十二村曾我左京次
江戸に遊学し鵬齋の門に入高弟と
ある日人曾テ師の像を谷文晁に
写さしめ尚師給ふて画題を得
たり

磐水大槻先生

先生諱茂質字子煥平姓大槻氏稱玄澤嘗家
磐井川上故以磐水篇號
寶暦七年九月二十八日生
文政十年三月晦歿
杉田九幸翁門人

六九

国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75
ガラス使用

右先人六十七歳肖像而讃詞係故參政
堀田正敦公所賜畫則世子正衡君所筆
也公自仙臺出繼堀田氏以故與先人交
誼甚篤先人所以成大業者此公將伯之
助蓋不少矣今摹其像寫其詞以弁斯巻
因聊書其由云爾

清崇識

故大槻磐水翁五十回追遠會

明治九年九月二十八日

祭主　男　清崇
　　孫　修二
　　　　文彦

幹事　大槻清二
　　大槻恒吉
　　大築拙藏
　　森　知之
　　熊澤了介
　　同　善庵

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号　か-75

ガラス使用

武田耕雲齋
三十九歳省像

平山兵原
練武堂
孫剛藏

社中
椿山画并書

七ノ一

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号 か-75
ガラス使用

武田耕雲齋
三十九歳省像

平山兵原
称幸藏
行

社中
椿山画并書

七ノ一

国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75
ガラス使用

夫講究韜畧演習武藝者其實在國報
國恩萬分之一矣若不出此則韜略雄精乎玉石執璧功乎
而不為鸚鵡能言木偶戲牧者一事希矣識者之無取焉
滑叩不自量命此社曰報國極知難免狂妄迂誕之謗也然亦有鼓勵士
氣激昂之事使其得進實用深知之道宜捨生報國之望於潛無稱
任其責矣是之不能無望增山沼流而海之言亦是
譚兵藩知何如者唯欲興斯勇義人陣主師存以律戰期不殺見如仁
社名報國君休笑皆刺盡忠我敵擊向謂是朱增山髮捨刀揮霍舊精神

菅多仲　晋師号茶山　備後神辺之人

山崎櫻齋

樵高姓ハ橋名ハ春秀
世稱平三郎性
昏を嗜む磊
落不羈ノ奇
才子なり外
貌雋行の君子と
こえたく寡言之
酒を嗜ミ美食
を好す指戦ニ
名を馳るるハ
世ニ知る所ニ
山の手の大関と称せられ
門人いと多し
拳の大人を三国志
の人物ニ喜てし
ものに樵高を曹操ニ
比せしいむべシ
筆才ありて書風一家を
成し又能治を善ス
江戸庭の風
をなるゝ善ス

大御番ハ普請高二百俵

内藤樵嶽画ノ此肖像
写真絶妙

明治十四年　模十五年四月着色

七ノ三

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号 か-75
ガラス使用

佐藤一齋
六十一歳像

安政六年九月廿四日
佐藤捨彦八十八

抱一

等覚院屠龍
酒井氏
文政十一子年十一月廿九日
六十八

抱一羽生像自画

田中抱二蔵

文庫

国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75

ガラス使用

藤田東湖
三十三歳省像

豊廣高弟
歌川廣重
号立齋
安政五年九月六日行年六十二
元祖寛政時代
歌川豊春 号一龍斎
歌川豊國 二代 豊國
歌川豊廣
歌川廣重
歌川國芳
東海道 [illegible]
西のみ[illegible]
廣重
豊國画

国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75
ガラス使用

豊國門人二世

歌川豊國

初名國貞

号五渡亭一雄齋
香蝶樓一陽齋
琴雷舎桃樹園
本所亀戸住
元治元子年十二月十五日
行年七十九
亀戸光明寺葬
豊國院貞匠画僊信士

命名のゆまつり
出とし此別れかな
歌川豊国

門人国周画

葛飾北齋

母ハ吉良臣小林平八郎孫女也

文化十四年十月五日尾張名古屋西掛所ニ捨て半身
達磨画く百二十五歳又文化元年四月三日音羽護国寺庭前画ニテ
中凡と為る時如業にて治するゆゑを作へるにて
こまりにきぶみ国を合入せんじ名臣程につめ為ねをとり
捨ひにて吞 其四時寄かしきぶてもに治すると
土隠にて煮る 超るかなけを忘

六十七八才ニ臨ル
文政末所

尾州名古屋本町通り川岸町大
地におゐて来ル十月五日席画
ハ三百二十五歳達磨大師
の寄像を画く

目六尺 右ハ九尺
口七尺 右一丈二尺
面三丈二尺
筆米俵五へく

文化十四丁丑年十月五日大画席上
東都旅客
北齋戴斗筆口

当日為天ニ六日ニ出ル志者ニ行ハ
□□

左側ニ

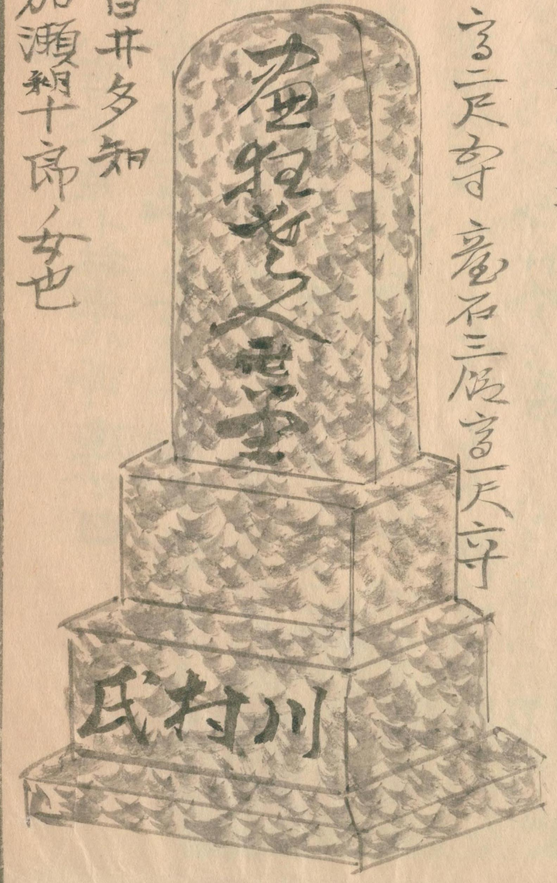
南総院喬誉北齋信士　嘉永二年四月十八日　没

姓善院法屋妙授　信女　文政十一年六月五日

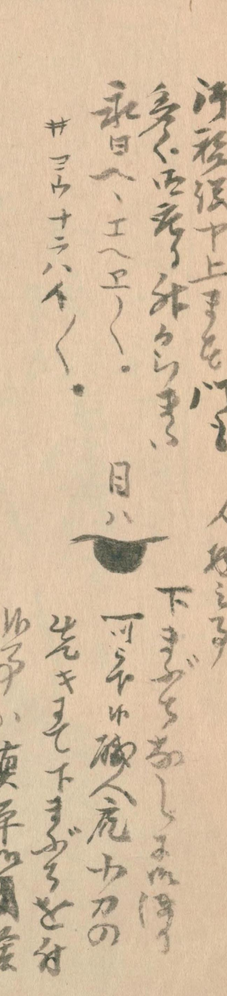
浄運妙心信女　文政四年十一月十二日

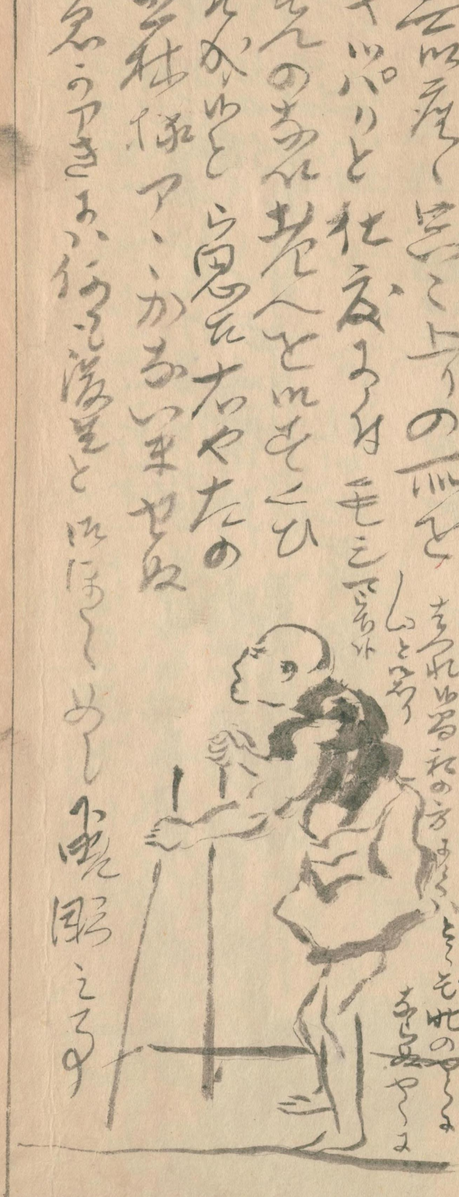
信
天保二年の巳　高二尺　幸　亀石三尺高一尺　守

八の字のふんそり
強く左の足
海嘯よ仮令きた
つるきれてもふるふ
あらし吹とも



祠堂金五百疋　白井多知
加瀬利十郎女也





国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号　か-75

ガラス使用

書舞高山房の營百人一首の画を依頼せしは
翁仮に隻并に書題ゆゑて送りたる其を見ぬ〜これ翁
自画の像にして既に覆ひたる如布蒲團なるべし
前に書ゆゑ
なるハ渡
瓶なり
是又翁
老て尚赤
貧なりし
景状を
画像なる
に足るゆ
なり

前北齋親父

此隻に目を
注ぎ〜
隻せきと
老の粉惑れ
書狸の
迷惑

葛飾北齋藤原氏 爲一 拵三浦屋二三郎
中嶋氏又葛飾氏又川村氏 浦賀勇中嶋三郎助妻
父ハ翁所ナリ
幼名時太郎後鉄蔵又鉄三
勝川春章門ニ入リ
画名勝川春朗
雷震又雷斗辰齋
辰政画狂人卍翁
卍老人画作時太郎可候
宝暦十年九月本所刻下水生 男小人目付加瀬崎十郎
嘉永二年四月十八日 沒九十 父ハ徳川家用達鏡師 養父
浅草六折寺町誓教寺苑 中嶋伊勢・女捨栄・應爲・ドロウ 甚画まくも
南総院奇峯北齋信士 辞世 非と魂〜ゆく三まつん〜や友のなら

二十七年二月墓

国立国会図書館 タイトル『肖像』 請求記号 か-75
ガラス使用

羣畫仰君宗
此圖淺矣面
愧能三生人今
日重相見
右題
文晁先生尊照
劉墉原

羣畫仰君宗
此圖淺矣面
愧能三生人今
日重相見
右題
文晁先生尊照
劉墉原

清人讃

国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75
ガラス使用

成島柳北

稱初名甲子太郎

諱弘字保民別号ヲ以通稱爲
奉仕幕府履任侍講兼
實記編纂長歩兵頭並
騎兵頭外國奉行會計副
副總裁叙從五位下任大隅守
明治維新之際辭職歸田
明治七年爲朝野新聞
社長專以國利民福
爲己任君以天保八年二月十六日
生於淺草邸以明治十七年
十一月三十日歿於墨水宅
享年四十八

文靖院柳北日詠居士
押上村本法寺正葬　十二月三日

国立国会図書館　タイトル『肖像』 請求記号 か-75
ガラス使用

か
特別
75

明治廿四年秋日 文紹

七十又六

国立国会図書館　タイトル『肖像』　請求記号 か-75

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『肖像』　請求記号　か-75

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『肖像』　請求記号　か-75

ガラス使用